

基礎・基本の確実な定着－知識の活用を目指して－

【越谷市教育委員会】

1 学校・学年・教科 中学校・全学年・社会

2 ねらい

基礎・基本の定着を図ることで、活用力、思考力・判断力・表現力を高め、学力向上を図る。

3 取組内容

①ノート指導の充実－東大生のノートを目指して－（1年生）

『東大合格生のノートはかならず美しい』（文藝春秋）を参考に、重要なところが明確で、見やすい「美しい社会のノート」をとらせようと考えた。板書をそのまま写すだけではなく、授業や教科書から情報を正しく取り上げ、解釈、熟考、表現するといった「美しく」まとめる過程を通して、より知識が定着しやすいと考えた。さらに、ノートを使った復習・テスト勉強指導により反復した基礎基本の習得活動に取り組みさせた。ノートはA4版のノートを使い、プリントを貼りやすく、資料も含めて全てノートに貼るよう指導した。さらに、ドットの入ったノートを教材費で一括購入し使用することで、書き出しなどがそろい見た目も美しくまとめることができている。また、「美しいノート」を活用するために、以下のような取組も行っている。

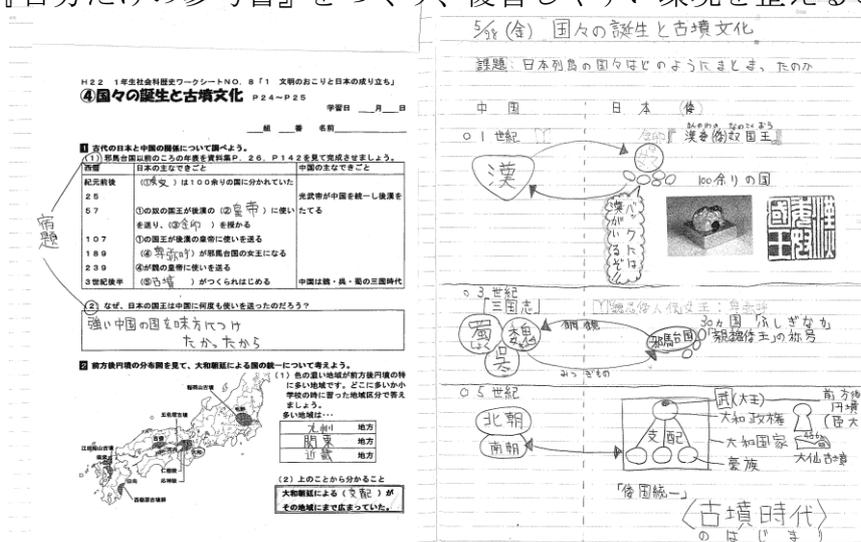
(1) 板書のページには、大切な資料（史料も含む）も一緒に貼る。

(2) ノートに使う色は3色が基本、重要語句の度合いを明確にする。

※教科書の太字とリンクさせたり、使用している問題集ともリンクさせたりする。

(3) ノートを活用したテスト勉強の方法の指導とテストへの出題。

以上の取組は『自分だけの参考書』をつくり、復習しやすい環境を整えることを目的に指導を行った。



生徒のノートの一例（1年生の歴史のノート）

2 語彙力の充実－自分の言葉で説明できる力の育成－（2年生）

	1年生	2年生
授業中	授業中に教科書を読み、 <u>先生が大切だといったところに線を引く。</u>	授業のまとめの時に、教科書を読み、今日の <u>大切なポイントを自分で判断し、線を引く。</u>
ノート テスト	語句の説明文に対して、 <u>()の中に適する語句を記入することができる。</u>	<u>重要語句を自分の言葉で説明できる。</u> テストに出題したりする。

語彙力における1年生と2年生での取組の違い

3年生に向かう前段階として、「自分の言葉で」をテーマに、ノートやプリントに語句や事象の説明ができるように取り組んでいる。また定期テストとも関連させて出題している。初めは、教科書や資料集の文をそのまま写している生徒も「小学生に説明してあげる文章で書く」と意識させると、文章に変化が見られた。

3 社会科単語帳の作成－知識の預金と運用－（3年生）

3年生で中心的に勉強するのが公民的分野である。社会科公民的分野は他の地理・歴史的分野と異なり、概念的な部分も多い。しかし、生徒の実生活に関わる事が多く、基礎・基本の知識の定着は、より高い生徒の興味・関心につなげることができる。さらに、単語帳に重要語句とその説明を書き、語句をため(預金)、語彙力を向上させていくことは、表現力だけでなく、語句を調べる、自分なりにまとめる過程を通して、理解力・思考力・判断力も養っていくことができると考え、取り組んだ。

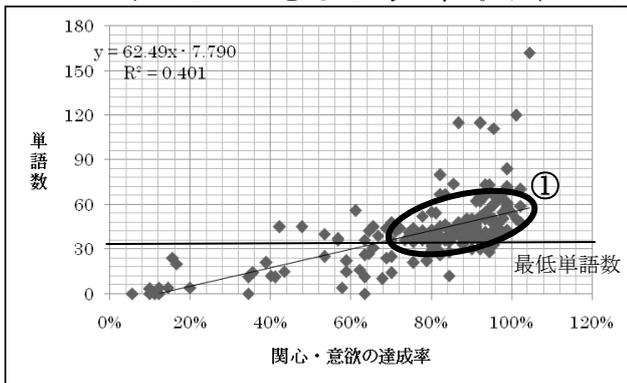


図1 単語数と関心・意欲の関係

※評価と単語帳集計により作成

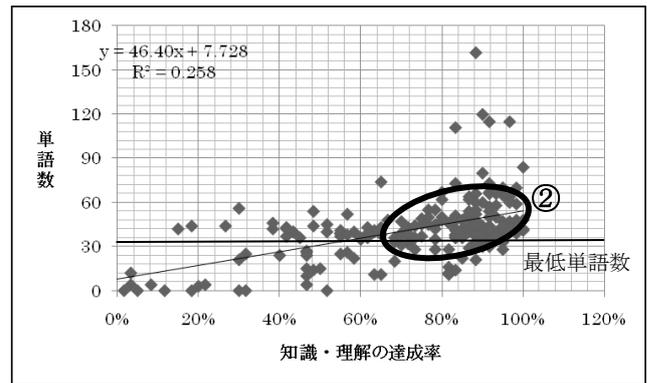


図2 単語数と知識・理解の関係

※評価と単語帳集計により作成

図中の①と②には8割近い生徒の集約が見られる。このことからわかることは、評価の観点の「関心・意欲」や「知識・理解」の評価が高い生徒ほど、単語帳の語句の登録数が多いということである。意欲を持って授業だけでなく、単語帳に単語をまとめることは、基礎・基本の知識定着に効果を上げているように思われる。今後は、さらにレポートや論文などで、貯金した知識を運用できる取組に繋げていきたい。

※上記の学年による取組は、平成21年度から現在までの取組をまとめたものである。